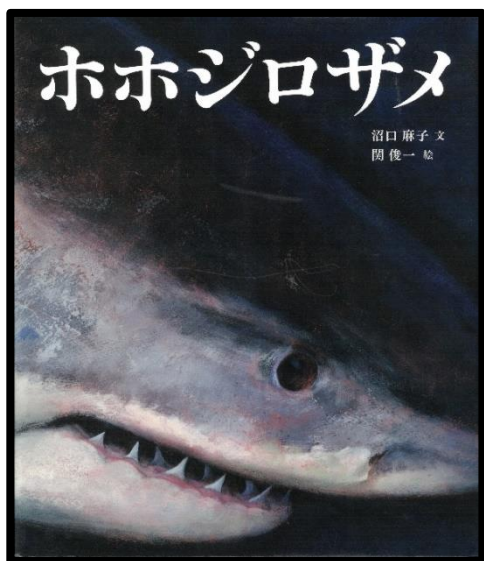


ホホジロザメ



沼口 麻子/文

関 俊一/絵

福音館書店〔エ〕

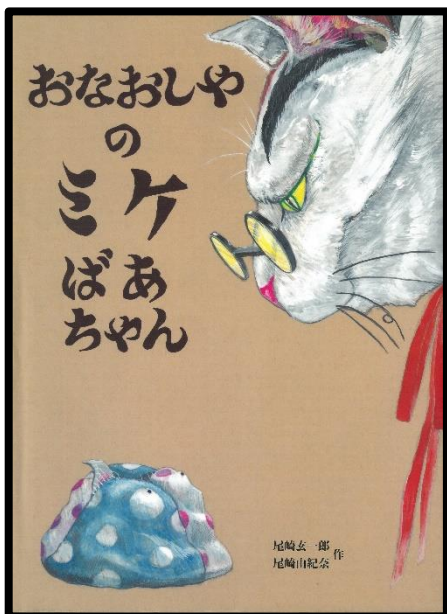
特集: 2022年に出版された本

ホホジロザメは北極・南極をのぞく世界中ほぼすべての海にいるサメです。魚やイカなどのほか、アザラシやオットセイなどをつかまえて食べます。

子ザメは母ザメの腹の中で1年過ごし、120センチメートルくらいで生まれます。おとなのホホジロザメの大きさは、最大で6メートルをこえます。

速く泳げる肌のひみつ、すぐに抜ける歯のことなど、ホホジロザメの生態を知ることができます。サメの迫力ある絵が魅力的な絵本です。

おなおしやのミケばあちゃん



尾崎 玄一郎 尾崎 由紀奈/作
偕成社〔エ〕

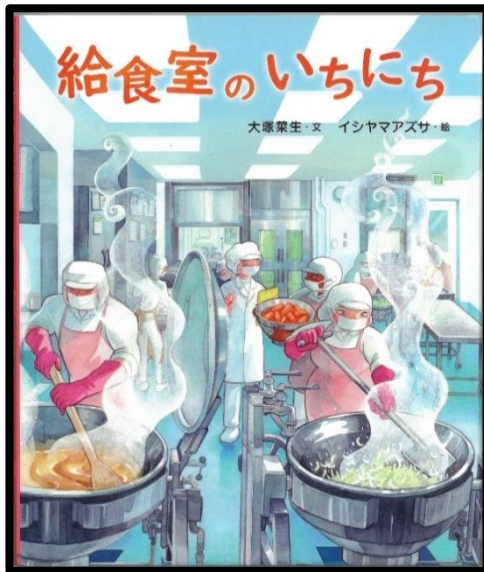
ミケばあちゃんは、だがしやのはるばあちゃんの家のねこです。ミケばあちゃんは、夜になるとだがしやのゆか下で古いおもちゃをしゅうりする“おなおしや”をひらいています。

ある日、お客さんもへり店も古くなったので、だがしやをしめるときいたミケばあちゃんは、おもちゃたちとだがしやにお客をよびもどすくせんをかんがえます。

何度でもなおして使える古いおもちゃの良さが伝わってくるおはなしです。

きゅうしょくしつ

給食室のいちにち



おおつか な お
大塚 菜生/文

イシヤマ アズサ/絵

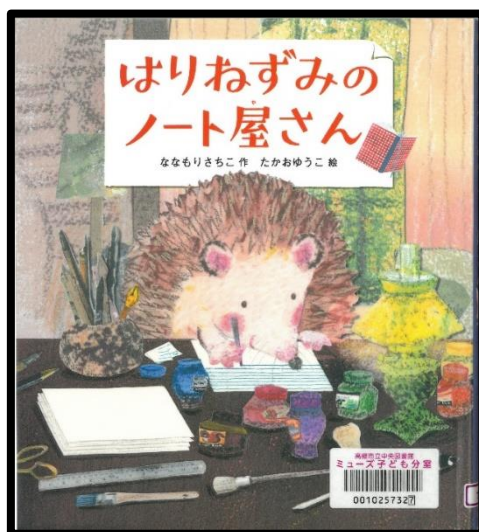
少年写真新聞社〔エ〕

午前7時30分、みどり小学校の給食室のいちにちが始まります。体のちょうしやみじたく、とどいたざいりょうのチェックなどのじゅんびをします。

みんなにおいしくて、あんぜんな給食をとどけるために、はたらいているちょうりいんさんのいちにちが、細かくわかりやすく描かれています。

給食室の音が聞こえ、にいがしてくるような絵本です。

はりねずみのノート屋さん



ななもり さちこ/作

たかお ゆうこ/絵

福音館書店〔913ナナ〕

はりねずみのツンタは、ひいおじいさんの茶色やしきのるすばんをするために、ペッパ―町からブランケット村にやってきました。

青バラ屋をしているうさぎのトンやカフェをしているうなぎのヌールたちと、なかよくなったツンタは、村のみんなにひみつのプレゼントをあげることを思いつきます。

はずかしがりやでしっぱいの多いツンタの新しいちょうせんを応援したくなるおはなしです。かんたんミニノートのつくりかたものっています。